

## 単元目標

- ・積極的に英語で物語の内容を伝えようとする。
- ・まとまった英語の話聞いて、内容がわかり、場面にあったセリフを言う。
- ・世界の物語に興味をもつ。

## 単元評価規準

- ・相手意識をもってまとまった話を聞いたり伝えたりしている。
- ・様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現を聞いたり言ったりしている。
- ・まとまった話を聞いている。
- ・世界には様々な物語があることに気付いている。

## 表現

We are strong and brave. We are good friends.  
dog, monkey, bird, peach, boy, Grandpa, Grandma

## 単元計画（6時間）

時	目標と主な活動	評価		
		コ	慣	気
1	世界の様々な物語に興味をもつ。 【P】「だれがかくれているか、さがそう。」誌面の絵から様々な物語の登場人物を探す。 【L】「お話を聞こう。」1回目 【L】「お話を聞こう。」2回目（単語） ○「ポインティングゲーム」（単語編）			○ ・世界には様々な物語があることに気付いている。<行動観察・振り返りカード分析>
2	まとまった話を聞いてそのあらすじがわかる。 【L】「お話を聞こう。」3回目（桃太郎セリフ） ○「ポインティングゲーム」（桃太郎セリフ編） 【L】「お話を聞こう。」4回目（共通セリフ） 【C】“We are good friends.”		○	・まとまった話を聞いている。<行動観察・振り返りカード点検>
3	まとまった話を聞いてそのあらすじがわかり、様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現に慣れ親しむ。 【L】「お話を聞こう。」5回目（鬼セリフ） 【C】“We are good friends.” 【A】「オリジナルの物語をつくって演じよう。」グループで登場人物を考えて、オリジナルの物語をつくる。		○	・まとまった話を聞いている。<行動観察・振り返りカード点検>
4	様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現に慣れ親しむ。			
5	【C】“We are good friends.” 【A】「オリジナルの物語をつくって演じよう。」グループで登場人物を考えて作った物語を演じる練習をする。		○	・様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現を聞いたり言ったりしている。<行動観察・振り返りカード点検>
6	積極的に英語を使って、考えた物語を聞こうとしたり伝えたりしようとする。 【C】“We are good friends.” 【A】「オリジナルの物語をつくって演じよう。」グループで登場人物を考えて作った物語を交流する。		○	・相手意識をもってまとまった話を聞いたり伝えたりしている。<行動観察・振り返りカード点検>

2-Lesson 7 We are good friends. 1/6 時間

目 標 世界の様々な物語に興味をもつ。

準 備 教師用絵カード (様々な物語・桃太郎場面絵), デジタル教材, (振り返りカード)

児童の活動	指導者の活動	準備物
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をし, 個別に数名の児童に挨拶をする。</li> </ul>	
<p><b>【Let's Play】 p. 26, 27</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誌面の絵にあるもので, 英語で言えるものを発表する。</li> <li>・どんな登場人物や動物がいるか探して発表する。</li> <li>・教師用絵カードで, どんな物語が誌面に隠れているか確認する。</li> <li>・音声教材を聞いて, それがどの物語のことか考える。</li> <li>・誌面に載っている以外で, 知っている物語を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誌面 p. 26, 27 の絵を見て, 英語で言えるものを発表させる。</li> <li>・どんな人物や動物がいるか探させながら, それらがどんな物語の登場人物か考えて発表させる。児童の発表にあわせて, 教師用絵カードを貼る。</li> <li>・音声教材で様々な物語を聞かせ, それがどの物語のことか尋ねる。 (デジタル教材を活用すれば, 様々な物語の場面絵を見ながら物語を聞かせることができる。)</li> </ul> <p style="text-align: right;">※評価</p>	<p>教師用絵カード (様々な物語) デジタル教材</p>
<p><b>【Let's Listen】 p. 26 ~ 36</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を聞く。&lt; 1回目 &gt;</li> </ul> <p>誌面を閉じ, 指導者の示す教師用絵カードを見ながら, 音声教材で物語を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を聞く。&lt; 2回目 &gt; (単語)</li> </ul> <p>誌面を閉じ, 指導者の示す教師用絵カードを見ながら, <u>何度も聞こえる単語を意識して</u>, 音声教材で物語を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえた単語を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を聞かせる。&lt; 1回目 &gt;</li> </ul> <p>教師用絵カードを見せ, 音声教材で物語を聞かせる。(デジタル教材を活用すれば, 場面ごとに流れる音声を聞かせることができる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を聞かせる。&lt; 2回目 &gt;</li> </ul> <p>聞かせる前に, <u>どんな単語が何度も聞こえるか意識して聞くよう指示する。</u> →strong, brave, friend (デジタル教材を活用すれば, 場面ごとに流れる音声を聞かせることができる。)</p>	<p>教師用絵カード (桃太郎場面絵) デジタル教材</p>
<p>○ポインティングゲームをする。(単語編)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誌面 p. 28 ~ 36 から, 指導者が言う語の絵を探して, さし示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誌面 p. 28 ~ 36 を使って, ポインティングゲームをすることを告げる。</li> <li>・指導者は, a big peach, kibidango, a dog, a mountain など各場面絵の中にあるものを言い, 児童にそれがあつる誌面を開かせ, さし示させる。</li> </ul>	<p>教師用絵カード (桃太郎場面絵) デジタル教材</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の英語を使おうとする態度などでよかったところをほめる。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<p>振り返りカード</p>

評価規準

・世界には様々な物語があることに気付いている。【気】 <行動観察・振り返りカード分析>

<p>2-Lesson 7 We are good friends. 2/6 時間</p> <p>目 標 まとまった話を聞いてそのあらすじがわかる。</p> <p>準 備 教師用絵カード (桃太郎場面絵), デジタル教材, (振り返りカード)</p> <p>(Hi, friends! 1 : 児童に予告しておき, 前年度に使用した冊子を持参させておく)</p>
---

児童の活動	指導者の活動	準備物
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をし, 個別に数名の児童に挨拶をする。</li> </ul>	
<p>【Let's Listen】 p. 26 ~ 36</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を聞く。&lt; 3回目 &gt; (桃太郎セリフ)</li> </ul> <p>指導者の示す教師用絵カードを見ながら, <u>桃太郎のセリフを意識して</u>, 音声教材で物語を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえた桃太郎のセリフを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>物語を聞かせる。&lt; 3回目 &gt;</u></li> </ul> <p>聞かせる前に, <u>桃太郎がどんなセリフを言うか意識して</u>聞くよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き終わったら, 聞こえた桃太郎のセリフを発表させ, それはこれまでのどの単元で聞いたり言ったりした表現だったか発表させる。(デジタル教材を活用すれば, 場面ごとに流れる音声を聞かせることができる。) ※評価</li> </ul>	<p>教師用絵カード (桃太郎場面絵)</p> <p>デジタル教材</p> <p>Hi, friends! 1</p>
<p>○ポインティングゲームをする。(桃太郎セリフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者が言う<u>桃太郎のセリフ</u>を聞いて, 誌面p. 28 ~ 36 から, そのセリフを言っている桃太郎の絵を探してさし示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誌面 p. 28 ~ 36 を使って, ポインティングゲームをすることを告げる。</li> <li>・指導者は, <u>桃太郎が言うセリフ</u>を言い, 児童に誌面からそのセリフを言っている桃太郎を探して, さし示させる。</li> <li>・教師用絵カードを見せ答えを確認する。(デジタル教材を活用すれば, 場面とともに音声を聞かせることができる。) ※評価</li> </ul>	<p>教師用絵カード (桃太郎場面絵)</p> <p>デジタル教材</p>
<p>【Let's Listen】 p. 26 ~ 36</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を聞く。&lt; 4回目 &gt; (共通セリフ)</li> </ul> <p>指導者の示す絵カードを見ながら, <u>桃太郎やさるなどの共通のセリフを意識して</u>, 音声教材で物語を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえた共通のセリフを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>物語を聞かせる。&lt; 4回目 &gt;</u></li> </ul> <p>聞かせる前に, 桃太郎やさる, 犬, キジが言う<u>共通のセリフが何かを意識して</u>聞くよう指示する。聞き終わったら, セリフを発表させ, そのセリフの場面を, 絵カードを見せて確認する。→strong, brave, friends (デジタル教材を活用すれば, 場面とともに音声を聞かせることができる。) ※評価</p>	<p>教師用絵カード (桃太郎場面絵)</p> <p>デジタル教材</p>
<p>【Let's Chant】 “We are good friends.”</p> <p>p. 37</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声教材を聞き, リズムに合わせて言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声教材を聞かせ, 一緒に言う。</li> </ul>	<p>デジタル教材</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の英語を使おうとする態度などでよかったところをほめる。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<p>振り返りカード</p>

評価規準

- ・まとまった話を聞いている。【慣】 <行動観察・振り返りカード点検>

2-Lesson 7 We are good friends. 3/6 時間

目標 まとまった話を聞いてそのあらすじがわかり、様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現に慣れ親しむ。

準備 教師用絵カード (桃太郎場面絵)、デジタル教材、(振り返りカード)

児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
<p>【Let's Listen】 p. 28 ~ 36</p> <p>・物語を聞く。＜5回目＞ (鬼セリフ)</p> <p>指導者の示す教師用絵カードを見ながら、鬼のセリフを意識して、音声教材で物語を聞く。</p> <p>・聞こえた鬼のセリフを発表する。</p> <p>・物語の内容やセリフの言い回しから、strong と brave について、それぞれの意味や違いを推測して発表する。</p>	<p>・物語を聞かせる。＜5回目＞</p> <p>聞かせる前に、鬼がどんなセリフを言うか意識して聞くよう指示する。聞き終わったら、セリフを発表させる。→strong 前時に確認した桃太郎やさるなどの共通のセリフとの違いを尋ねる。(児童が忘れていたら、再度桃太郎とさるなどのセリフの部分のみを聞かせる。)</p> <p>・strong (力強い、壮健な、丈夫などの意) と brave (困難に出会っても恐れず、勇敢な、勇ましいなどの意) はどんな意味だと思うか尋ねる。正解を求めるのではなく、児童の想像力を大切にする。(デジタル教材を活用すれば、場面ごとに流れる音声を聞かせることができる。) ※評価①</p>	<p>教師用絵カード (桃太郎場面絵)</p> <p>デジタル教材</p>
<p>【Let's Chant】 “We are good friends.” p. 37</p> <p>・音声教材を聞き、リズムに合わせて言う。</p>	<p>・音声教材を聞かせ、一緒に言う。</p>	<p>デジタル教材</p>
<p>【Activity】 p. 37</p> <p>・グループで登場人物を工夫して、オリジナルの物語をつくる。</p> <p>・約束事を守って物語を作る。</p> <p>・これまでの外国語活動の授業で慣れ親しんだ語や表現を取り入れながら、セリフを決めたり、練習したりする。</p> <p>・オリジナル登場人物を、誌面 p. 37 に書く。</p>	<p>・グループでオリジナル桃太郎物語を作り、発表することを告げる。作るに当たって以下のことを約束にする。 ※評価②</p> <p>①この物語の strong, brave, friends という言葉を大切に、登場人物を工夫する。</p> <p>②これまでの外国語活動の授業で慣れ親しんだ語や表現を多く取り入れ、聞いている人にわかるようなセリフにする。</p> <p>③聞いている人にわかるような、セリフの言い方やジェスチャーを工夫する。</p> <p>④グループで配役をし、全員がセリフを言う場面を作る。</p> <p>(デジタル教材を活用すれば、これまで外国語活動の授業で扱った表現の音声を確認したり、辞書機能で調べたりすることができる。)</p>	<p>Hi, friends! 1</p> <p>デジタル教材</p>
<p>・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。</p> <p>・挨拶をする。</p>	<p>・児童の英語を使おうとする態度などでよかったところをほめる。</p> <p>・挨拶をする。</p>	<p>振り返りカード</p>

評価規準

①まとまった話を聞いている。【慣】＜行動観察・振り返りカード点検＞

②様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現を聞いたり言ったりしている。【慣】＜行動観察・振り返りカード点検＞

2-Lesson 7 We are good friends. 4・5/6時間

目 標 様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現に慣れ親しむ。

準 備 デジタル教材, (振り返りカード)

児童の活動	指導者の活動	準備物
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。</li> </ul>	
<p>【Let's Chant】 “We are good friends.” p. 37</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声教材を聞き、リズムに合わせて言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声教材を聞かせ、一緒に言う。</li> </ul>	デジタル教材
<p>【Activity】 p. 37</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで登オリジナル物語の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、自由に音声教材を聞けるようにしておく。 (デジタル教材を活用すれば、これまで外国語活動の授業で扱った表現の音声を確認したり、辞書機能で調べたりすることができる。)</li> <li>・各グループを回り、進捗状況を把握するとともに、セリフやジェスチャーなどのアドバイスをする。</li> <li>・設定されたチャンツを参考に、オリジナルチャンツを作らせるのもよい。</li> <li>・活動を途中で止め、各グループの進捗状況をみんなに報告させる。そうすることで、ほかのグループのよいところを参考にさせる。その後、活動を再開させる。</li> <li>・次の例のように、各グループでオリジナルのテーマを考え、メッセージをもたせた話になるようにアドバイスをする。</li> </ul> <p>例1：地球環境を守るために仲間が集まる。 例2：絶滅危惧動物を守るために仲間が集まる。 例3：学校をより楽しくするために仲間が集まる。 など。</p> <p style="text-align: right;">※評価</p> <p>(児童の実態に応じて、グループごとに物語を作るのではなく、学級で物語を作ってもよい)</p>	デジタル教材
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループでの様子をとらえて、よかったところなどをほめる。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	振り返りカード

評価規準

・様子や要求を表したり尋ねたりする表現や、誰かに何かするよう命令したり促したりする表現を聞いたり言ったりしている。【慣】 <行動観察・振り返りカード点検>

2-Lesson 7 We are good friends. 6/6 時間

目 標 積極的に英語を使って、考えた物語を聞こうとしたり伝えたりしようとする。

準 備 デジタル教材, (振り返りカード)

児童の活動	指導者の活動	準備物
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。</li> </ul>	
<p><b>【Let's Chant】</b> “We are good friends.”</p> <p>p. 37</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声教材を聞き、リズムに合わせて言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声教材を聞かせ、一緒に言う。</li> </ul>	デジタル教材
<p><b>【Activity】</b> p. 37</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループがオリジナル劇を発表する。</li> <li>・発表を鑑賞するグループは、発表の後、よかったところや工夫されていたところなど、感想を発表する。英語のほめ言葉を言う。</li> </ul> <p>Good! Very nice! Excellent!</p> <p>Good gesture. Clear voice.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに順に発表させる。</li> <li>・各グループの劇が終わったときには、拍手しながら Good! や Excellent! などのほめ言葉を言い、鑑賞したほかの児童にも言うように促す。</li> <li>・発表の後には、鑑賞したほかのグループによかったところや工夫されていたところなどの感想を発表させる。感想は日本語で発表するが、英語のほめ言葉を加えさせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">※評価</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表内容、セリフの言い方などでよかったところ、工夫されていたところなどについてコメントを言う。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	振り返りカード

評価規準

・相手意識をもってまとまった話を聞いたり伝えたりしている。【コ】 <行動観察・振り返りカード点検>